

ID No.	1025
研究課題名	p53 変異難治性造血器悪性腫瘍耐性メカニズムの解明及び治療戦略構築
研究代表者	上久保 靖彦 (京都大学・特定教授)
研究組織	
受入教員	今井 陽一 (東京大学医科学研究所・准教授)
研究分担者	足立 壯一 (京都大学・教授) 松尾 英将 (京都大学・助教) 松井 恭澄 (京都大学・大学院生) 田中 直 (京都大学・大学院生) 服部 悦子 (京都大学・大学院生) 中谷 香菜 (京都大学・大学院生) 能浦 三奈 (京都大学・大学院生) 金谷 卓弥 (京都大学・大学院生) 佐々木 亜沙美 (京都大学・大学院生) 立田 俊也 (京都大学・大学院生) 武田 佳那子 (京都大学・大学院生) 割石 菜月 (京都大学・大学院生) 武田 瑞穂 (京都大学・大学院生) 沖中 えり佳 (京都大学・大学院生) 増田 達哉 (京都大学・大学院生) 小林 紫乃 (京都大学・大学院生) 小山 朝美 (京都大学・大学院生)
研究報告書	
	<p>造血器悪性腫瘍における、AML 及び ALL より RUNX カテゴリ-を抽出した。RUNX-転写因子 X ファミリーアキシスにそのカテゴリ-の増殖・維持は依存することが判明した。RUNX 阻害剤(Chb-M')により、本カテゴリ-の細胞株、NOG 移植モデル、PDX モデル(Primary AML 及び ALL)では著明な増殖抑制、OS の改善を認めた。</p> <p>さらに前立腺癌においてDNPCがRUNX高発現群であることを発見した。RUNX-S100A16に大坊増殖・維持は依存し、In vitro、In vivoでRUNX阻害剤(Chb-M')の効果を確認した。現在論文投稿中である。</p>